

(様式第 10)

北里病発第 29-100 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 北里研究所  
理事長 小林 弘祐 (印)

北里大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒108-8641 東京都港区白金五丁目 9 番 1 号
氏 名	学校法人 北里研究所

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

北里大学病院
--------

3 所在の場所

〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里一丁目 1 5 番 1 号	電話( 042 ) 778 - 8111
--	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科	
5血管外科                      6心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科    ②小児科    ③整形外科    ④脳神経外科    ⑤皮膚科    ⑥泌尿器科    7産婦人科
⑧産科    ⑨婦人科    ⑩眼科    ⑪耳鼻咽喉科    12放射線科    ⑬放射線診断科
⑭放射線治療科    ⑮麻酔科    ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1小児歯科    2矯正歯科    3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 臨床検査科    2 病理診断科    3 リハビリテーション科
------------------------------------

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0 床	0 床	0 床	0 床	1033床	1033床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	497人	102人	512.6人	看 護 補 助 者	91人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	2人	2人	2.3人	理 学 療 法 士	21人	臨 床 検 査 技 師	128人
薬 剤 師	82人	4人	85.0人	作 業 療 法 士	10人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	13人	0人	13.0人	視 能 訓 練 士	15人	そ の 他	0人
助 産 師	44人	0人	44.0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	1267人	18人	1276.9人	臨 床 工 学 士	41人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	14人
准 看 護 師	1人	0人	1.0人	栄 養 士	1人	そ の 他 の 技 術 員	13人
歯 科 衛 生 士	3人	0人	3.0人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	208人
管理栄養士	31人	0人	31.0人	診 療 放 射 線 技 師	80人	そ の 他 の 職 員	142人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	47人	眼 科 専 門 医	15人
外 科 専 門 医	49人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13人
精 神 科 専 門 医	1人	放 射 線 科 専 門 医	11人
小 児 科 専 門 医	15人	脳 神 経 外 科 専 門 医	11人
皮 膚 科 専 門 医	8人	整 形 外 科 専 門 医	24人
泌 尿 器 科 専 門 医	14人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	17人	救 急 科 専 門 医	14人
		合 計	254人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 海野 信也 ) 任命年月日 平成 27 年 7 月 1 日

リスクマネジメント委員会の構成員としての業務に従事

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	829人	0人	829人
1日当たり平均外来患者数	2,950.7人	26.9人	2977.6人
1日当たり平均調剤数	2164.6 剤		
必要医師数	252人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	28人		
必要(准)看護師数	515人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,125 m <sup>2</sup>		病床数	72床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	212.22 m <sup>2</sup>	病床数	20床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	67.30 m <sup>2</sup>			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	228.87m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	159.02m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) オートクレーブ、全自動同定感受性装置、安全キャビネット、孵卵器			
病理検査室	521.58m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) ラミナーテーブル、切り出し台、撮影装置、顕微鏡、遠心器、遺伝子解析装置、PCR、VIP、自動染色装置、自動封入装置、包埋センター			
病理解剖室	316.90m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台、切り出し台、ラミナーテーブル、撮影装置			
研究室	4,946.80m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細胞解析装置、マイクローム、電子顕微鏡超低温フリーザ、高速冷却遠心機			
講義室	2,952.67m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	27室	収容定員	2,248人
図書室	3,052.23m <sup>2</sup>		室数	2室	蔵書数	19万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	81.9%	逆紹介率	62.0%
算出根拠	A：紹介患者の数	23,743人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20,057人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	2,750人	
	D：初診の患者の数	32,377人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター	○	大学病院等の医療機関における医療安全業務の経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管理に関する識見を有する
海野 宏行	みなと総合法律事務所		弁護士としての経験。	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	法律に関する識見を有する。
山口 育子	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML		医療現場により良いコミュニケーションを築く豊富な活動経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける側の立場として
和田 仁孝	早稲田大学大学院法務研究科		医療メディエーターとしての豊富な経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	学識経験を有する。
花井 恵子	神奈川県看護協会		大学病院における医療安全業務の経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	医療に係る安全管理に関する識見を有する

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 法人ホームページにて公表	





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	122
2	筋萎縮性側索硬化症	4	57	特発性拡張型心筋症	186
3	脊髄性筋萎縮症	0	58	肥大型心筋症	14
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	1
5	進行性核上性麻痺	15	60	再生不良性貧血	48
6	パーキンソン病	241	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	9	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	134
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	2	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	173	66	IgA腎症	34
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	24
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	116	68	黄色靭帯骨化症	13
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	18	69	後縦靭帯骨化症	91
15	封入体筋炎	3	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クロー・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	123
17	多系統萎縮症	22	72	下垂体性ADH分泌異常症	21
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	5
21	ミトコンドリア病	13	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	70	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	32
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	118
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	3
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	3
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	2
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	86
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	43
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	18
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	13
34	神経線維腫症	15	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	57	90	網膜色素変性症	37
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	3
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	4
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	78
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	39	95	自己免疫性肝炎	20
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	304
42	結節性多発動脈炎	27	97	潰瘍性大腸炎	671
43	顕微鏡的多発血管炎	64	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	33	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	25	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	627	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	191	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	222	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	82	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	37	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	16	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	16
113	筋ジストロフィー	12	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	3
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	2
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	2
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	1
158	結節性硬化症	3	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	2	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	2	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	6	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	1	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	1
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	1
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	5
224	紫斑病性腎炎	5	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	1	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	8
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	3
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料一般病棟7対1入院基本料	・救命救急入院料1・4
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・特定集中治療室管理料1
・救急医療管理加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1・2
・超急性期脳卒中加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料1・2
・医師事務作業補助体制加算1(100対1)	・小児入院管理料1
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・
・看護職員夜間配置加算(12対1加算1)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1・2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・がん拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・病棟薬剤業務実施加算1・2	・
・データ提出加算2のイ	・
・退院支援加算1・3	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝カウンセリング加算
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・高度難聴指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・外来リハビリテーション診療料	・ロービジョン検査判断料
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)・(Ⅱ)	・センチネルリンパ節生検(片側)
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算1・2
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影
・排尿自立指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1・2	・大腸CT撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・心臓MRI撮影加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・乳房MRI撮影加算
・持続血糖測定器加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・遺伝学的検査	・外来化学療法加算1
・造血器腫瘍遺伝子検査	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・経皮的冠動脈形成術
・難病患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・集団コミュニケーション療法料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経カテーテル大動脈弁置換術
・通院・在宅精神療法	・胸腔鏡下動脈管開存閉鎖術
・硬膜外自家血注入	・経皮的中隔心筋焼灼術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算2	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・磁気による膀胱等刺激法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)	・補助人工心臓
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る)	・小児補助人工心臓
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・経皮的大動脈遮断術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ダメージコントロール手術
・治療的角膜切除術(エキマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に限る))	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下肝切除術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下睪体尾部腫瘍切除術
・網膜再建術	・腹腔鏡下臍頭十二指腸切除術
・人工内耳植込術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・上顎骨形成術、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科診療以外の診療に係るものに限る)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・同種死体腎移植術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・生体腎移植術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・人工尿道括約筋植込・置換術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・麻酔管理料(I)・(II)	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・
・高エネルギー放射線治療	・
・1回線量増加加算	・
・強度変調放射線治療(IMRT)	・
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	・
・体外照射呼吸性移動対策加算	・
・定位放射線治療	・
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・
・画像誘導密封小線源治療加算	・
・保険医療機関間の連携による病理診断	・
・病理診断管理加算2	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・	・
・	・



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
神奈川循環器救急レジストリーの構築—急性重症心筋梗塞の予後改善に向けての対策—	阿古潤哉(分担)	循環器内科	10,000	補委 文部科学省科学研究助成金
高齢心不全患者における身体的・社会的フレイルに関する疫学・予後調査	前川恵美(分担)	循環器内科	2,000,000	補委 第42回日本心臓財団研究奨励
急性心不全に対する早期リハビリテーションの安全性と効果に関する研究	前川恵美(分担)	循環器内科	3,900,000	補委 科学研究費助成金(若手B)
				補委

計 3

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ギラン・バレー症候群に対するエクリズマブの安全性と有効性を評価する前向き・多施設共同・第II相試験	西山和利	神経内科学	600,000	補委 国立研究開発機構日本医療研究開発機構 (AMED)
ヒト神経可逆性への神経治療薬の影響:神経変性疾患の新しい視点の病態生理解明の基盤	花島律子	神経内科学	1,300,000	補委 日本学術振興会科学研究費助成事業
機能的ネットワーク病態への介入	花島律子	神経内科学	6,500,000	補委 日本学術振興会科学研究費助成事業
発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静注血栓溶解療法の適応拡大を目指した臨床研究	西山和利	神経内科学	250,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発費
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	西山和利	神経内科学	390,000	補委 国立研究開発法人日本医療研究開発費
自己免疫性脳炎および自己免疫性てんかんにおける抗神経細胞表面抗原抗体の臨床的意義に関する研究	飯塚高浩	神経内科学	1,600,000	補委 公益財団法人てんかん治療研究振興財団
				補委

計 6

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ベーチェット病に関する調査研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	400,000	補 委	厚生労働省
免疫抑制剤の効果的な併用による難治性膠原病治療プロトコール作成のための研究	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	1,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
中枢神経ループスにおける脳血液関門障害の機序の解析	廣畑 俊成	膠原病・感染内科	1,200,000	補 委	文部科学省
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
自己毛包幹細胞由来の心筋シートを用いた心筋損傷部の再生医療	天羽康之	医学部皮膚科	2,000,000	補委 テルモ科学技術振興財団
				補委

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
肺癌個別最適化医療に資するバイオマーカーと標準的放射線治療法の確立に関する臨床的研究	早川和重	放射線治療科	1,040,000	補 委 学術研究助成基金助成金
放射線治療を含む標準治療確立のための多施設共同研究	早川和重	放射線治療科	300,000	補 委 国立がん研究センター研究開発費
				補 委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	山下 継史	外科	520,000	補 委	厚生労働科学研究委託費革新的がん医療実用化研究事業
大腸癌臨床でのメチル化DNAマーカーを用いたLiquid Biopsyの開発	渡邊 昌彦	外科	1,820,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
冠動脈血行再建戦略の最適化のための生理学的血流動態シュミレーションシステムの構築.	宮地 鑑	心臓血管外科	1,300,000	補委	文部科学省科学研究費補助金(基盤研究C)
マルチスケール全身循環系モデルの患者個別モデルへの臨床応用.	杉本 晃一	心臓血管外科	2,900,000	補委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成金基金助成金) 基盤研究(C)
肝修復、肝類洞再生を制御するプロスタグランジン受容体シグナルの解析.	大久保 博世	心臓血管外科	1,600,000	補委	文部科学省科学研究費助成事業(学術研究助成金基金助成金)若手研究(B).
				補委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規肺腺がん細胞株を用いたがん浸潤・転移機構の解析	佐藤 之俊	呼吸器外科	1,820,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
マウス中皮腫モデルを用いた胸腔内治療法の開発及び中皮腫の新規バイオマーカーの探索	塩見 和	呼吸器外科	1,820,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
片肺全摘後の代償性肺再生における骨髄由来VEGFR1陽性幹細胞の役割	松井 啓夫	呼吸器外科	1,820,000	補 委	独立行政法人日本 学術振興会
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	原 純一	大阪市立総合医療センター	100,000	補 委	日本医療研究 開発機構研究 費
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	
				補	
				委	

計 1

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
神経免疫学的視点による難治性視神経炎の診断基準作成H27-難治等(難)-一般-023	石川 均	眼科	3,878,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)平成27年度
SMILE手術のエネルギー設定の最適化と角膜、眼表面、視機能に及ぼす影響の検討	神谷 和孝	眼科	3,900,000	補 委	科学研究費 基盤研究(C) 研究課題番号: 5K10846] 2015年4月1日～2018年3月31日(予定)
				補 委	

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
難治性頭頸部癌に対する腫瘍溶解性センダイウィルスによる治療効果	山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100,000	補	文部科学省
5-アミノレブリン酸による蛍光ナビゲーションは頭頸部癌の切除精度を向上させるか?	宮本俊輔	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,000,000	補	文部科学省
喉頭麻痺に対する線維芽細胞増殖因子を徐放させた自家筋膜移植術の検討	永井浩巳	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	補	文部科学省
				補委	

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膀胱癌における血清蛋白質の網羅的解析と診断スクリーニング法の確立	松本和将	泌尿器科	1,430,000	補 委	文科省
マウス腎移植モデルによる抗体関連型拒絶反応と抗CD20モノクローナル	石井大輔	泌尿器科	1,560,000	補 委	文科省
標準的治療の確立が望まれる難知性疾患に対する新規治療法の開発	岩村正嗣	泌尿器科	210,000	補 委	AMED
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究	恩田貴志	婦人科	650,000	補 ○委	AMED
上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的実験	恩田貴志	婦人科	1,000,000	補 ○委	AMED
進行・再発子宮頸癌の予後向上を目指した集学的治療の開発	恩田貴志	婦人科	195,000	補 ○委	AMED
				補 委	

計 3

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
流体力学を用いた成人先天性心疾患術後血行動態の解明:心臓MRIと分子生物学的検証	北川 篤史	小児科	(直接経費)1,400,000 (間接経費)420,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金若手研究(B)
疾患保因者は移植ドナーとなりえるか?ハンター病の早期治療による予後改善を目指して	秋山 和政	小児科	(直接経費)900,000 (間接経費)270,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金若手研究(B)
川崎病病因解明のための多施設共同研究:川崎病における自然免疫制御機構の解析	緒方 昌平	小児科	(直接経費)1,100,000 (間接経費)330,000	補 委	厚生労働省科学研究費補助金若手研究(B)
川崎病におけるB細胞機能、活性化の評価、及び濾胞性T細胞との関係性	江波戸 孝輔	小児科	400,000	補 委	公益財団法人 森永奉仕会
				補 委	
				補 委	
				補 委	

計 4件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
進行期直腸癌のβ-カテニン/EMT誘導癌幹細胞化による化学・放射線療法の耐性機構	高橋博之	病院病理部	1,820,000	補 委 科学研究費助成事業
子宮癌肉腫のβ-カテニン/上皮間葉転換(EMT)によるがん・肉腫幹細胞化誘導機構の分子メカニズム:病理組織での可視化とその臨床応用	高橋博之	病院病理部	1,575,000	補 委 北里大学医療系研究科
				補 委

計 2

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

総合計 41

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	事業所名の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ishizue N, Niwano S, Fukaya H, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	The J-wave as a Predictor of Life- Threatening Arrhythmia in ICD Patients.	Int Heart J. 2017 Feb 7;58(1):36-42.	Original Article
2	Ikeda Y, Ishii S, Fujita T, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Prognostic impact of intestinal wall thickening in hospitalized patients with heart failure.	Int J Cardiol. 2017 Mar 1;230:120- 126.	Original Article
3	Kakizaki R, Nabeta T, Mizutani T, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Tumor Plop Sound.	Circ J. 2016 Oct 25;80(11):2407- 2408.	Case report
4	Igarashi T, Niwano S, Fukaya H, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Discrimination of Paroxysmal and Persistent Atrial Fibrillation in Patients With New-Onset Atrial Fibrillation.	Int Heart J. 2016 Sep 28;57(5):573- 9.	Original Article
5	Kakizaki R, Nabeta T, Ishii S, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Cardiac resynchronization therapy reduces left ventricular energy loss.	Int J Cardiol. 2016 Oct 15;221:546-8.	Original Article
6	Satoh A, Niwano S, Niwano H, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Aliskiren suppresses atrial electrical and structural remodeling in a canine model of atrial fibrillation.	Heart Vessels. 2017 Jan;32(1):90- 100.	Original Article
7	Ishizue N, Niwano S, Saito M, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Polytherapy with sodium channel- blocking antiepileptic drugs is associated with arrhythmogenic ST-T abnormality in patients with epilepsy.	Seizure. 2016 Aug;40:81-7.	Original Article
8	Fujiishi T, Niwano S, Murakami M, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Efficacy and Limitations of Tachycardia Detection Interval Guided Reprogramming for Reduction of Inappropriate Shock in Implantable Cardioverter-Defibrillator Patients.	Int Heart J. 2016 May 25;57(3):304- 9.	Original Article
9	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Kakizaki R, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Ezetimibe enhances and stabilizes anticoagulant effect of warfarin.	Heart Vessels. 2017 Jan;32(1):47- 54.	Original Article
10	Komatsu T, Inomata T, Watanabe I, et al.	北里大学病院 薬学部	Population pharmacokinetic analysis and dosing regimen optimization of penicillin G in patients with infective endocarditis.	J Pharm Health Care Sci. 2016 Apr 5;2:9.	Original Article
11	Ishii S, Inomata T, Fujita T, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Clinical significance of endomyocardial biopsy in conjunction with cardiac magnetic resonance imaging to predict left ventricular reverse remodeling in idiopathic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2016 Dec;31(12):1960- 1968.	Original Article
12	Ako J, Morino Y, Okuizumi K, et al.	北里大学医学部 循環器 内科学	Japanese postmarketing surveillance of clopidogrel in patients with non- ST-segment elevation acute coronary syndrome, stable angina, old myocardial infarction, and ST- segment elevation myocardial infarction after percutaneous coronary intervention in a real-life setting: the final report (J-PLACE Final).	Cardiovasc Interv Ther. 2016 Apr;31(2):101-13.	Original Article

13	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Kakizaki R, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Teneligliptin improves left ventricular diastolic function and endothelial function in patients with diabetes.	Heart Vessels. 2016 Aug;31(8):1303-10.	Original Article
14	Nabeta T, Inomata T, Iida Y, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Prognostic significance of beta-blocker up-titration in conjunction with cardiac resynchronization therapy in heart failure management.	Heart Vessels. 2016 Jul;31(7):1109-16.	Original Article
15	Ikeda Y, Inomata T, Iida Y, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Time course of left ventricular reverse remodeling in response to pharmacotherapy: clinical implication for heart failure prognosis in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2016 Apr;31(4):545-54.	Original Article
16	Fujita T, Inomata T, Kaida T, et al.	北里大学医療系研究科 循環器内科学	Tafamidis for the Treatment of Hereditary Transthyretin Amyloid Cardiomyopathy: A Case Report.	Cardiology. 2017 137(2):74-77.	Case report
17	Tanaka S, Kamiya K, Hamazaki N, et al.	北里大学医療系研究科 臨床医科学群 循環器内科学専攻	Utility of SARC-F for Assessing Physical Function in Elderly Patients With Cardiovascular Disease.	J Am Med Dir Assoc. 2017 Feb 1;18(2):176-181.	Original Article
18	Kamiya K, Masuda T, Matsue Y, et al.	北里大学病院 リハビリテーション部	Prognostic Usefulness of Arm and Calf Circumference in Patients ≥65 Years of Age With Cardiovascular Disease.	Am J Cardiol. 2017 Jan 15;119(2):186-191.	Original Article
19	Tanaka S, Masuda T, Kamiya K, et al.	北里大学医療系研究科 臨床医科学群 循環器内科学専攻	A Single Session of Neuromuscular Electrical Stimulation Enhances Vascular Endothelial Function and Peripheral Blood Circulation in Patients With Acute Myocardial Infarction.	Int Heart J. 2016 Dec 2;57(6):676-681.	Original Article
20	Ikeda Y, Inomata T, Fujita T, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Cardiac fibrosis detected by magnetic resonance imaging on predicting time course diversity of left ventricular reverse remodeling in patients with idiopathic dilated cardiomyopathy.	Heart Vessels. 2016 Nov;31(11):1817-1825.	Original Article
21	Tanaka S, Kamiya K, Masuda T, et al.	北里大学医療系研究科 臨床医科学群 循環器内科学専攻	Low ankle brachial index is associated with the magnitude of impaired walking endurance in patients with heart failure.	Int J Cardiol. 2016 Dec 1;224:400-405.	Original Article
22	Kamiya K, Masuda T, Matsue Y, et al.	北里大学病院 リハビリテーション部	Complementary Role of Arm Circumference to Body Mass Index in Risk Stratification in Heart Failure.	JACC Heart Fail. 2016 Apr;4(4):265-73.	Original Article
23	Kamiya K, Satoh A, Niwano S, et al.	北里大学病院 リハビリテーション部	Safety of neuromuscular electrical stimulation in patients implanted with cardioverter defibrillators.	J Electrocardiol. 2016 Jan-Feb;49(1):99-101.	Original Article
24	Hashikata T, Yamaoka-Tojo M, Kakizaki R, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Teneligliptin improves left ventricular diastolic function and endothelial function in patients with diabetes.	Heart Vessels. 2016 Aug;31(8):1303-10.	Original Article
25	Fukaya H, Niwano S, Oikawa J, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Safety of low-dose dabigatran in patients with atrial fibrillation and mild renal insufficiency	J Cardiol 2017; 69: 591-5.	Original Article
26	Fukaya H, Ako J	北里大学医学部 循環器内科学	Triple antithrombotic therapy. ~ Always one too many ~	Circ J 2016; 80: 316-7.	Others
27	Minami Y, Meguro K, Shimohama T, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Successful Retrieval of Entrapped Balloon with Optical Coherence Tomography Guidance	JACC Cardiovasc Interv. 2016;9(19):2070-2071	Case report

28	Nabeta T, Inomata T, Fujita T, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Temporal change of myocardial tissue character is associated with left ventricular reverse remodeling in patients with dilated cardiomyopathy: A cardiovascular magnetic resonance study	J. Cardiol. 2017;70(2):185-191	Original Article
29	Nabeta T, Hashikata T, Tojo T, et al.	北里大学医学部 循環器内科学	Localized Inflammation and Aneurysm Formation 10 Years After Sirolimus-Eluting Stent Implantation	Circ J. 2017;81(7):1054-1055	Case report
30					Original Article
31					Case report
32					Review
33					Letter
34					Others
35					
～					
70					
～					

計 29件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所 属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Iizuka T, Kaneko J, Tominaga N et al.	北里大学医学部 神経内科学	Association of Progressive Cerebellar Atrophy With Long-term Outcome in Patients With Anti-N-Methyl-d-Aspartate Receptor Encephalitis.	JAMA Neurol. 2016 Jun 1;73(6):706-13.	Original Article
2	Hanajima R, Tsutsumi R, Shirota Y,	北里大学医学部 神経内科学	Cerebellar dysfunction in essential tremor.	Mov Disord. 2016 Aug;31(8):1230-4	Original Article
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
~					
70					
~					

計 2件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tono T, Nagai T, Hoshiyama T, Sakuma Y, Wada T, Tanaka S, Hirohata S.	Department of Rheumatology and Infectious Diseases, Kitasato University	Transverse myelitis extended to disseminated encephalitis in systemic lupus erythematosus: Histological evidence for vasculitis.	Mod Rheumatol. 26(6): 958-962, 2016.	Original Article
2	Abe G, Kikuchi H, Arinuma Y, Hirohata S.	〃	Brain MRI in patients with acute confusional state of diffuse psychiatric/neuropsychological syndromes in systemic lupus erythematosus	Mod Rheumatol. 27(2): 278-283, 2017.	Original Article
3	Sakuma Y, Nagai T, Yoshio T, Hirohata S	〃	Differential activation mechanisms of serum C5a in lupus nephritis and neuropsychiatric systemic lupus erythematosus.	Mod Rheumatol. 27(2): 292-297, 2017.	Original Article
4	Sumiaki Tanaka, Yu Matsueda, Tatsuhiko Wada, Junichi Tanaka, Tatsuo Nagai, Shunsei Hirohata	〃	Long-term survival of patients with pulmonary arterial hypertension associated with connective tissue disease: beneficial effects of beraprost sodium, an oral prostacyclin analog	Kitasato Med J .47: 52-61, 2017.	Original Article
5					
6					
~					
70					
~					

計 4 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 0件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Katsuo Inoue, Shinya Tsuzaki, Shizuko Suzuki, et al.	精神神経科	Which assessment tool is most useful to diagnose adult autism spectrum disorder?	The Kitasato Medical Journal. 2017 Jan ; 47(1): 26-30	Original Article
～					

計 1件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Natsuko Tohg1, Koya Obara1, Yuko Hamada1, Nobuko Arakawa1, Masateru Yashiro1, Sumiyuki Mii1, Ryoichi Aki1, Robert M. Hoffman2,3, and Yasuyuki Amoh1	1Department of Dermatology, Kitasato University School of Medicine, Minami Ward, Sagamihara, Japan; 2AntiCancer, Inc., 7917 Ostrow Street, San Diego, CA; 3Department of Surgery, University of California San Diego, CA	Human hair-follicle associated pluripotent (hHAP) stem cells differentiate to cardiac- muscle cells	Cell Cycle 16 (1), p.95-99, 2017	Original Article
2	Kyومي Shirai1, 2, Yuko Hamada1, Nobuko Arakawa1, Aiko Yamazaki1, Natsuko Tohg1, Ryoichi Aki1, Sumiyuki Mii1, Robert M. Hoffman3, 4 §, and Yasuyuki Amoh1	1Department of Dermatology, Kitasato University School of Medicine, Minami Ward, Sagamihara, Japan; 2Department of Dermatology, National Hospital Organization Yokohama Medical Center, Totsuka Ward, Yokohama, Japan; 3AntiCancer, Inc., 7917 Ostrow Street, San Diego, CA; 4Department of Surgery, University of California San Diego, CA	Hypoxia enhances differentiation of hair follicle-associated-pluripotent (HAP) stem cells to cardiac muscle cells	Journal of Cellular Biochemistry 118 (3), p.554-558, 2016	Original Article
3	Aiko Yamazaki1, Yuko Hamada1, Nobuko Arakawa1, Masateru Yashiro1, Sumiyuki Mii1, Ryoichi Aki1, Katsumasa Kawahara2, Robert M. Hoffman3, Yasuyuki Amoh1	1Kitasato University School of Medicine, Department of Dermatology, Sagamihara, Japan, 2Kitasato University School of Medicine, Department of Physiology, Sagamihara, Japan, 3AntiCancer, Inc., San Diego, CA, USA.	Early-age-dependent selective decrease of differentiation potential of hair-follicle- associated pluripotent (HAP) stem cells to beating cardiac muscle cells.	Cell Cycle 15 (19), p.2619-2625, 2016	Original Article
4					
5					
6					
7					
8					
9					
～					
70					
～					

計 3

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
4					
5					
～					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	井上優介	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Monitoring dose-length product in computed tomography of the chest considering sex and body weight.	Radiat Prot Dosimetry. 2016 Nov;171(3):375-381.	Original Article
2	井上優介	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Measurement of renal depth in dynamic renal scintigraphy using ultralow-dose CT.	Clin Nucl Med. 2016 Jun;41(6):434-41.	Original Article
3	秦 博史	北里大学病院(放射線部、放射線診断科)	Influence of the magnetic field strength on image contrast in Gd-EOB-DTPA-enhanced MR imaging: comparison between 1.5T and 3.0T.	Magn Reson Med Sci. 2017 Apr 10;16(2):109-114.	Original Article
4	小笠原 豪	北里大学病院(放射線診断科、放射線部)	Evaluation of a respiratory navigator-gating technique in Gd-EOB-DTPA-enhanced magnetic resonance imaging for the assessment of liver tumors.	Eur J Radiol. 2016 Jun;85(6):1232-7.	Original Article
5	小見正太郎	北里大学病院(放射線部、放射線診断科)	Cardiovascular magnetic resonance evaluation of left ventricular peak filling rate using steady-state free precession and phase contrast sequences.	2016 Jul 25;5(1):1163.	Original Article
6					
~					
70					
~					

計 5件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yamashita K, Kuno A, Matsuda A, et al.	一般・消化器外科	Lectin microarray technology identifies specific lectins related to lymph node metastasis of advanced gastric cancer.	Gastric Cancer. 2016 Apr;19(2):531-42.	Original Article
2	Yamashita K, Katada N, Moriya H, et al.	一般・消化器外科	Neoadjuvant chemotherapy of triplet regimens of docetaxel/cisplatin/5-FU (DCF NAC) may improve patient prognosis of cStage II/III esophageal squamous cell carcinoma—propensity score analysis.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2016 Apr;64(4):209-15.	Original Article
3	Yamashita K, Hosoda K, Moriya H, et al.	一般・消化器外科	Long-term prognostic outcome of cT1 gastric cancer patients who underwent laparoscopic gastrectomy after 5-year follow-up.	Langenbecks Arch Surg. 2016 May;401(3):333-9.	Original Article
4	Ushiku H, Yamashita K, Kawamata H, et al.	一般・消化器外科	Homeobox-Only Protein Expression Is a Critical Prognostic Indicator of Pancreatic Neuroendocrine Tumor and Is Regulated by Promoter DNA Hypermethylation.	Pancreas. 2016 Oct;45(9):1255-1262.	Original Article
5	Sato T, Watanabe M.	一般・消化器外科	Present laparoscopic surgery for colorectal cancer in Japan.	World J Clin Oncol. 2016 Apr 10;7(2):155-9.	Original Article
6	Yamashita K, Sakuramoto S, Kikuchi S, et al.	一般・消化器外科	Laparoscopic versus open distal gastrectomy for early gastric cancer in Japan: long-term clinical outcomes of a randomized clinical trial.	Surg Today. 2016 Jun;46(6):741-9.	Original Article
7	Nakamura T, Sato T, Takayama Y,	一般・消化器外科	Risk Factors for Surgical Site Infection after Laparoscopic Surgery for Colon Cancer.	Surg Infect (Larchmt). 2016 Aug;17(4):454-8.	Original Article
8	Yamashita K, Hosoda K, Ema A, et al.	一般・消化器外科	Lymph node ratio as a novel and simple prognostic factor in advanced gastric cancer.	Eur J Surg Oncol. 2016 Sep;42(9):1253-60.	Original Article
9	Ishii S, Yamashita K, Kato H, et al.	一般・消化器外科	Predictive factors for lymph node metastasis in additional gastrectomy after endoscopic resection of cT1aN0 gastric cancer.	Surg Today. 2016 Sep;46(9):1031-8.	Original Article
10	Hosoda K, Yamashita K, Katada N, et al.	一般・消化器外科	Potential benefits of laparoscopy-assisted proximal gastrectomy with esophagogastrostomy for cT1 upper-third gastric cancer.	Surg Endosc. 2016 Aug;30(8):3426-36.	Original Article
11	Naito M, Ogura N, Yamanashi T, et al.	一般・消化器外科	Prospective randomized controlled study on the validity and safety of an absorbable adhesion barrier (Interceed®) made of oxidized regenerated cellulose for laparoscopic colorectal surgery.	Asian J Endosc Surg. 2017 Feb;10(1):7-11.	Original Article

12	Naito M, Yamanashi T, Nakamura T, et al.	一般・消化器外科	Safety and efficacy of a novel linear staple device with bioabsorbable polyglycolic acid felt in laparoscopic colorectal surgery.	Asian J Endosc Surg. 2017 Feb;10(1):35-39.	Original Article
13	Tanaka T, Sato T, Yamashita K, et al.	一般・消化器外科	Effect of Preoperative Nutritional Status on Surgical Site Infection in Colorectal Cancer Resection.	Dig Surg. 2017;34(1):68-77.	Original Article

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



計 13件

計 件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tanino H, Kosaka Y, Nishimiya H, et al.	乳腺・甲状腺外科	BRCAness and Prognosis in Triple-Negative Breast Cancer Patients Treated with Neoadjuvant Chemotherapy.	PLoS One. 2016.12 ;9-11 (12):e0165721	Original Article
2	Katoh H, Kikuchi M, Waraya M, et al.	乳腺・甲状腺外科	Epigenetic silencing of HOPX contributes to cancer aggressiveness in breast cancer.	Cancer Lett. 2017.1 ;1 (384):70-78	Original Article

計 2 件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみ場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Koyama S, Kitamura T, Itatani K, 他	北里大学医学部心臓血管外 科学	Impact of top end anastomosis design on patency and flow stability in coronary artery bypass grafting.	Heart Vessels.2016 May,31(5)643-8	Original Article
2	Takanashi M, Ogata S, Honda T他	北里大学医学部小児科学	Timing of Haemophilus influenzae type b vaccination after cardiac surgery.	Pediatr Int. 2016 Aug;58(8):691-7.	Original Article
3	Tanaka Y, Miyamoto T, Naito Y,他	北里大学医学部心臓血管外 科学	Randomized Study of a New Noninvasive Skin Closure Device for Use After Congenital Heart Operations	Ann Thorac Surg. 2016 Oct;102(4):1368-74.	Original Article
4	Goto S, Nakamura M, Itatani K他	埼玉大学	Synchronization of the Flow and Pressure Waves Obtained With Non- Simultaneous Multipoint Measurements.	Int Heart J. 2016 Jul 27;57(4):449-55.	Original Article
5	Honda T, Itatani K, Takanashi M, 他	北里大学医学部小児科学	Contributions of Respiration and Heartbeat to the Pulmonary Blood Flow in the Fontan Circulation.	Ann Thorac Surg. 2016 Nov;102(5):1596-1606	Original Article
6	Sugimoto K, Tsuchida Y, Hayashi H,他	北里大学医学部心臓血管外 科学	Epicardial Implantable Cardioverter- Defibrillator in a 2- Month-Old Infant.	Ann Thorac Surg. 2017 Mar;103(3):e263-e265.	Original Article
7	Tanaka Y, Kitamura T, Horai T,他	北里大学医学部心臓血管外 科学	Two-stage operation for Stanford type A acute aortic dissection originating from Kommerell's diverticulum.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2016 May;22(5):695-7.	Case report
8	Nakamura Y, Miyaji K, Yoshii T,他	北里大学医学部心臓血管外 科学	Aorto-Left Ventricular Tunnel Successfully Repaired Immediately After Birth.	Ann Thorac Surg. 2016 May;101(5):1988-90	Case report

9	Kitamura T, Tanaka Y, Horai T,他	北里大学医学部心臓血管外科学	eReply. Re: Addition of the frozen elephant trunk to the ascending aorta and aortic arch replacement in case of Stanford type A aortic dissection occurring in the presence of Kommerell's diverticulum.	Interact Cardiovasc Thorac Surg. 2016 May;22(5):697.	Case report
10	Nakamura Y, Miyaji K, Miyata Y, 他	北里大学医学部心臓血管外科学	An Extremely Rare Variant of Pulmonary Venous Atresia.	Ann Thorac Surg. 2016 Jun;101(6):2382-4.	Case report
11	Tanaka Y, Nie M, Yamamoto N, 他	北里大学医学部心臓血管外科学	Surgical management of left ventricular thrombus following severe dehydration.	Heart Vessels. 2016 Aug;31(8):1389-92.	Case report

計11件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Satoh Y	呼吸器外科	Management of chest drainage tubes after lung surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.2016 Jun; 64: 305-8.	Review
2	Satoh Y,Ishikawa Y	呼吸器外科	Multiple primary pulmonary meningiomas: 20-year follow-up findings for a first reported case confirming a benign biological nature.	Int J Surg Case Rep. 2017 Jan; 31:58-60.	Case report
3	Naito M,Satoh Y, Ishii G, et al.	呼吸器外科	Microenvironmental changes in the progression from adenocarcinoma in situ to minimally invasive adenocarcinoma and invasive lepidic predominant adenocarcinoma of the lung.	Lung Cancer.2016 Oct;100:53-62.	Original Article
4	Sonoda D, Satoh Y, et al.	呼吸器外科	Complete Resection of Oligorecurrence of Stage I Lung Adenocarcinoma 19 Years After Operation.	Ann Thorac Surg .2017 Feb; 103: e119-120.	Case report
5					
6					
~					
70					
~					

計4件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Satou T, Ishikawa H, Asakawa K, 他	医学部 眼科学	Effects of ripasudil hydrochloride hydrate instillation on pupil dynamics.	Current Eye Research 2017.1 42(1):54-57	Original Article
2	Satou T, Goseki T, Asakawa K, 他	医学部 眼科学	Effects of age and sex on values obtained by RAPDx® pupillometer, and determined the standard values for detecting relative afferent pupillary	Transl Vis Sci Technol. 2016.4 28(5):18eCollection	Original Article
3	Satou T, Ishikawa H, Asakawa K, 他	医学部 眼科学	Evaluation of relative afferent pupillary defect using RAPDx® device in patients with optic nerve disease.	Neuro-Ophthalmology 2016.5 40(3): 120-124	Original Article
4	Goseki T, Ishikawa H, Shoji N	医学部 眼科学	Bilateral concurrent eye examination with a head-mounted perimeter for diagnosing functional visual loss.	Neuro-Ophthalmology 2016.12 40(6): 281-285	Original Article
5	Iijima A, Shimizu K, Yamagishi M, 他	医学部 眼科学	Assessment of subjective intraocular forward scattering and quality of vision after posterior chamber phakic intraocular lens with a central hole (Hole ICL) implantation.	Acta Ophthalmol. 2016 Dec;94(8):e716-e720.	Others
6	Kamiya K, Shimizu K, Miyake T.	医学部 眼科学	Changes in astigmatism and corneal higher-order aberrations after phacoemulsification with toric intraocular lens implantation for mild keratoconus with cataract.	Jpn J Ophthalmol. 2016 Jul;60(4):302-8.	Others
7	Kamiya K, Kobashi H, Igarashi A,他	医学部 眼科学	Effect of Light Scattering and Higher-order Aberrations on Visual Performance in Eyes with Granular Corneal Dystrophy.	Sci Rep. 2016 Apr 18;6:24677.	Others

8	Shimizu K, Kamiya K, Igarashi A, 他	医学部 眼科学	Long-Term Comparison of Posterior Chamber Phakic Intraocular Lens With and Without a Central Hole (Hole ICL and Conventional ICL) Implantation for Moderate to High Myopia and Myopic Astigmatism	Consort-Compliant Article. Medicine (Baltimore). 2016 Apr;95(14):e3270.	Others
9	Kazunori Hirasawa, Nobuyuki Shoji, Masayuki Kasahara, 他	医療衛生学部	Comparison of size modulation and conventional standard automated perimetry with the 24-2 test protocol in glaucoma patients	Scientific Reports, 2016.5 6:25563	Others
10	Kazunori Hirasawa, Kana Okano, Risako Koshiji, 他	医療衛生学部	Smaller Fixation Target Size Is Associated with More Stable Fixation and Less Variance in Threshold Sensitivity	PLOS ONE 2016, 11 11(11):e0165046	Original Article
～					

計 10件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

## (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	R.Inoue,S.Umehara,K.Suzuki,他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Audiological care following newborn hearing screening:a follow-up study on NISU infants and well-baby nursery infants.	Kitasato Med J 46(2):136-145.2016.9	Original Article
2	T.Yamaguchi,T.Ishii,K.Yamamoto 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Differences in urinary leukotriene E4 levels and distribution of eosinophils between chronic rhinosinusitis patients with aspirin-intolerant and -tolerant asthma.	Auris Nasus Larynx 43(3)304-308. 2016.6	Original Article
3	A.Ochiai,H.Naganuma	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Wernick's encephalopathy with upbeat nystagmus.	Equilibrium Res.75(6)505-510.2016.12	Original Article
4	M.Nakayama,S.Miyamoto,Y.Seino 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Neoglottal revisions after Supracricoid laryngectomy with cricohyoidoepiglottopy.	Jpn J Clin Oncol.46(7):642-5, 2016.5	Original Article

計4件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Hideyasu Tsumura, Takefumi Satoh, Hiromichi Ishiyama, et al.	泌尿器科	Prostate-specific antigen nadir after high-dose-rate brachytherapy predicts long-term survival outcomes in high-risk prostate cancer	Journal of Contemporary Brachytherapy.8(2):95-103・2016.4	Original Article
2	Tetsuo Fujita, Morihiro Nishi, Ken-ichi Tabata, et al.	泌尿器科	Overall prognostic impact of C-reactive protein level in patients with metastatic renal cell carcinoma treated with sorafenib	ANTI-CANCER DRUGS.27(10):1028-1032・2016.11	Original Article
3	Nishi Morihiro, Matsumoto Kazumasa, Fujita Tetsuo, et al.	泌尿器科	Improvement in Renal Function and Symptoms of Patients Treated with Laparoscopic Pyeloplasty for Ureteropelvic Junction Obstruction with Less Than 20% Split Renal Function	JOURNAL OF ENDOUROLOG.30(11):1214-1218・2016.11	Original Article
4	Hideyasu Tsumura, Takefumi Satoh, Hiromichi Ishiyama, et al.	泌尿器科	Perioperative Search for Circulating Tumor Cells in Patients Undergoing Prostate Brachytherapy for Clinically Nonmetastatic Prostate Cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF MOLECULAR SCIENCES.18(1):1-10・2017.1	Original Article

計4件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Onda T, Sato T, Saito T et al.	北里大学医学部産婦人科	Comparison of treatment invasiveness between upfront debulking surgery versus interval debulking surgery following neoadjuvant chemotherapy for stage III/IV ovarian, tubal, and peritoneal cancers in a phase III randomised trial: Japan Clinical	European journal of cancer. 2016;64:22-31.	Original Article

計 1件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院 における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ooka M, Ito T, Ishii M et al.	小児科	Changes in Neonatal Microbiota Distribution Influenced by the Environment of the Neonatal Intensive Care Unit in the First Month of Life.	Journal of Neonatal Biology2016;5:2.1-7	Original Article
2	Nonoda Y, Miyakoshi M, Alejandro Ojeda et al.	小児科	Interictal high-frequency oscillations generated by seizure onset and eloquent areas may be differentially coupled with different	Clinical Neurophysiology2016; 127:6.2489-2499	Original Article
3	Takanashi M, Ogata S, Ishii M et al.	小児科	Timing of Haemophilus influenzae type b vaccination after cardiac surgery.	Pediatr Int 2016;58: 8. 691-697	Original Article
4	Honda T, Itatani K, Ishii M et al.	小児科	Contributions of Respiration and Heartbeat to the Pulmonary Blood Flow in the Fontan Circulation.	The Annals of Thoracic Surgery2016;58: 5.1596-1606	Original Article
5	Toki T, Iwasaki T, Ishii M.	小児科	Topiramate Blood Levels During Polytherapy for Epilepsy in Children.	American Journal of Therapeutics2016;14: 1-7	Original Article
6	Honda T, Knai Y, Ishii M et al.	小児科	Fetal arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy with double mutations in TMEM43.	Pediatrics International2016;58:5 . 409-411.	Case report

計 6件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属する場合は、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

計 0件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	高橋博之	病院病理部	Ovarian endometrioid adenocarcinoma in a young woman with hemorrhagic shock due to tumor disintegration: A case report.	Human Pathology: Case Reports・H28年9月	Case report

計1件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	小幡進、棟方伸一、狩野有作、他	臨床検査部	Detection of nystagmus in the eye-closed condition using electronystagmography.	Kitasato Med J,46 (2), 2017	Original Article
2					

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 手順書の主な内容①研究者が、研究申請書及び実験計画書を倫理委員会事務局へ提出。 ②臨床研究指針に基づき委員会にて審議ならび判定の後、臨床研究 機関長が実施の可否を決定する。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 規定の主な内容：産官学連携活動に関する北里大学利益相反マネジメント・ポリシーに基づき、利益相反に関する事項を審議する。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 6 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 6 回
・ 研修の主な内容：「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の総合解説等	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

北里大学病院は、1033床の病床を有する特定機能病院であり、地域における災害拠点病院、がん診療連携拠点病院として超急性期医療に対応するべく、各医療センターを中心にチーム医療を中心とした最先端の医療を提供している。  
初期臨床研修後の病棟医（卒後3～6年）については、各科毎に「後期研修プログラム」を設け、上位者よりきめ細かい指導を受ける体制と、医師としての資質向上のため診療科の枠を超えた全病院的指導体制を築いている。  
当院での研修を通じて、幅広い知識と技量を有した専門医を育成し、専門領域に関する継続的な探究心を身につけることを目標とする。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	148.8 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
七里 眞義	内分泌代謝内科	教授	36 年	
竹内 康雄	腎臓内科	教授	27 年	
鈴木 隆浩	血液内科	教授	23 年	
廣畑 俊成	感染症内科	教授	36 年	
小泉 和三郎	消化器内科	教授	36 年	
阿古 潤哉	循環器内科	教授	25 年	
益田 典幸	呼吸器内科	教授	39 年	
西山 和利	神経内科	教授	29 年	
宮岡 等	精神科	教授	35 年	
天羽 康之	皮膚科	教授	20 年	
井上 優介	放射線診断科	教授	27 年	
早川 和重	放射線治療科	教授	38 年	
渡邊 昌彦	外科	教授	37 年	
佐藤 之俊	呼吸器外科	教授	31 年	
宮地 鑑	心臓血管外科	教授	29 年	
隈部 俊宏	脳神経外科	教授	30 年	
高相 晶士	整形外科	教授	27 年	
武田 啓	形成外科・美容外科	教授	31 年	
岩村 正嗣	泌尿器科	教授	33 年	
山下 拓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	21 年	
庄司 信行	眼科	教授	28 年	
石井 正浩	小児科	教授	31 年	
恩田 貴志	産科・婦人科	教授	30 年	
岡本 浩嗣	麻酔科	教授	29 年	
浅利 靖	救急科	教授	30 年	
狩野 有作	臨床検査科	准教授	26 年	
村雲 芳樹	病理診断科	教授	28 年	
赤星 透	内科	教授	37 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。



(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 海野 信也	
管理担当者氏名	事務部長 熊澤 豊彦	

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	診療録の管理については、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づき電子カルテを整備したうえ診療情報管理規程を定めて管理している。診療録の病院外への持ち出しは診療情報管理規程等について定めている。
		各科診療日誌	人事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報管理室	
		看護記録	診療情報管理室	
		検査所見記録	診療情報管理室	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	診療情報管理室	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	診療情報管理室	
		紹介患者に対する医療提供の実績	トータルサポートセンター	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療の質・安全推進室	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療の質・安全推進室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療の質・安全推進室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
	第二条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
	第三条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
	第四条	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
	第五項	医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
	第六号	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第七号	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第八号	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第九号	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部
	第十号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	第十一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療の質・安全推進室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療の質・安全推進室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究・先進医療支援室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療の質・安全推進室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療の質・安全推進室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療の質・安全推進室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療の質・安全推進室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療の質・安全推進室
職員研修の実施状況	医療の質・安全推進室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療の質・安全推進室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状	
閲覧責任者氏名	事務部長	熊澤 豊彦	
閲覧担当者氏名	総務課長	小林 健二	
閲覧の求めに応じる場所	総務課		
閲覧の手続の概要			
閲覧申請を受けたら、事務部長の承認を得て、総務課内にて閲覧する。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 安全管理に関する基本的考え方（基本理念、基本姿勢、用語の定義）</li><li>2) 安全管理のための委員会及び組織体制に関する基本的事項</li><li>3) 安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針</li><li>4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策</li><li>5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針</li><li>6) 職員と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li><li>7) 患者及び家族からの相談への対応に関する基本方針</li><li>8) その他医療安全の推進のために必要な方策</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設置の有無（有・無）</li><li>・ 開催状況：年 12回</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療事故防止活動全般とインシデント及び医療事故発生時の対応に関すること</li><li>2) 医療事故防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること</li><li>3) 医療事故防止のための情報収集と必要部門への伝達に関すること</li><li>4) 医療安全に係る各種ワーキング及びプロジェクト活動に関すること</li><li>5) 全死亡例及び医療事故の報告状況の確認、並びに報告状況が不十分な場合の研修、指導に関すること</li><li>6) 医療事故等の原因究明のための調査・分析に関すること及び分析結果を活用した改善方策の立案・実施・周知に関すること並びに改善方策の実施状況の調査、方策の見直しに関すること</li></ol></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 53回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>リスクマネジメント研修会（内部講師・外部講師、全職員対象）</li><li>リスクマネジャー研修会（内部講師、リスクマネジャー及び医療安全推進者対象）</li><li>各種の医療安全研修会（チーム STEPPS、転倒・転落の防止、一次救命処置、ME 安全管理他）</li><li>新規採用者研修（研修医・コメディカルのオリエンテーション時）</li><li>復職医師・中途採用医師の研修、看護師のフォローアップ研修等</li></ul></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全管理者による情報の収集・調査・分析及び改善評価の実施</li><li>2) リスクマネジメント委員会での改善具体策の検討・実施</li><li>3) 改善具体策のフィードバック（リスクマネジメントニュース・会議体での周知、マニュアルの改廃・作成等）</li></ol></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 院内感染対策に関する基本方針 院内管理体制 院内感染対策のための教育・研修 感染症発生状況報告体制 院内感染発生時の対応 患者などに対する当該方針の閲覧に関する基本方針</p> <p>制定、改定について：平成19年4月1日制定。平成22年2月24日付、平成23年2月22日付、平成26年2月26日付平成28年2月24日付で一部改定</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 院内感染防止のための活動全般と感染症発生時の対応に関すること 院内感染防止のための職員教育、指導及びマニュアル作成、変更に関すること 院内感染防止のための情報収集と現場部門への伝達に関すること 院内感染管理に係る各種ワーキング等の活動に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年75回
<p>・ 研修の主な内容： 新規採用者、復職者、中途採用者への研修 全職員を対象とした医療安全研修会（平成27年度3回実施） 主に医師を対象としたICTセミナー（平成27年度4回実施） 看護補佐、診療アシスタント、ボランティア、奉仕団を対象とした感染対策研修会、 リンクスタッフを対象とした感染対策研修会 院内常駐委託業者を対象とした研修会 各種防護具等の着脱訓練、N95マスクフィットテスト 手指衛生に関する研修会 その他</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①検査結果速報体制の整備</li><li>②感染症・食中毒発生報告体制の整備</li><li>③サーベイランスによる発生状況の把握およびフィードバック</li><li>④針刺し・粘膜曝露事故発生時の対応体制の整備</li></ul> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①「院内感染防止対策の手引き」の発行</li><li>②「かんせん情報」の発行（平成28年度7回発行）</li><li>③院内イントラネットに「院内感染防止対策の手引き」「かんせん情報」「抗菌薬感受性率一覧」「抗菌薬使用量」「感染症診療のための臨床分離情報」等を掲載し24時間の閲覧情報提供</li><li>④広域抗菌薬、抗MRSA薬の使用届出制</li><li>⑤ICT活動（毎週水曜日：抗菌薬・血液培養陽性者ラウンド、環境ラウンド）</li><li>⑥年間を通じた、感染、病原体、抗菌薬に関するコンサルテーション</li><li>⑦流行感染症に対する予防・対策</li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容 :</li><li>・ 医療安全に係る説明 (医薬品) 開催日 : 2016年4月1日 (金) 場所 : 臨床講義室No. 1 8:45~10:00 (内15分) 参加者 : 復職・兼務医師採用者 85 名 講師 : 薬剤部 小川 幸雄 (この他の7~10月はビデオで実施)</li><li>・ 医療用麻薬の適正使用 開催日 : 2016年10月6日 (木) 場所 : 会議室 No. 3 17:30~18:30 参加者 : 看護師、薬剤師 16 名 講師 : 薬剤部 国分 秀也</li><li>・ 「静脈栄養」～基礎編～ 開催日 : 2016年10月12日 (水) 場所 : 集団指導室 17:40~18:40 参加者 : 医師、看護師、栄養士、薬剤師 64名 講師 : 薬剤部 神 一夢</li><li>・ 簡易懸濁法と栄養チューブ閉塞予防について 開催日 : 2016年11月9日 (水) 場所 : 集団指導室 17:40~18:40 参加者 : 医師、看護師、栄養士、薬剤師 63名 講師 : 薬剤部 細井 祥生</li><li>・ 注射剤の配合変化 開催日 : 2017年1月23日 (月) 場所 : 臨床講義室 No. 5 17:30~18:30 参加者 : 看護師、薬剤師 19名 講師 : 薬剤部 佐々木 寿子</li><li>・ 抗がん剤の安全対策について 開催日 : 2017年2月20日 (月) 場所 : 臨床講義室No. 1 17:15~18:00 参加者 : 看護師、看護補佐、薬剤師 16名 講師 : 薬剤部 菅原 充広</li><li>・ 抗凝固薬の適正使用について 開催日 : 2017年3月7日 (火) 場所 : 臨床講義室No. 1 17:30~18:30 参加者 : 看護師、薬剤師7名 講師 : 薬剤部 赤嶺 聡彦</li><li>・ 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) の適正使用 開催日 : 2017年3月21日 (火) 場所 : 臨床講義室No. 4 17:30~18:30 参加者 : 看護師、薬剤師 10名 講師 : 薬剤部 友田 明子</li></ul>	

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成 (  有 ・ 無 )

・ 業務の主な内容 :

医薬品安全使用のための業務手順書に則り、医薬品の安全使用が実施されているかを病棟担当薬剤師、他の病棟担当薬剤師、看護師の3者で病棟ごとにチェックシートを用いて年4回確認。  
医薬品安全管理責任者はそのチェックシートを1月と6月の年2回確認。

「医薬品安全使用のための業務手順書」

「医薬品安全使用に関するチェックシート」

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (  有 ・ 無 )

・ その他の改善のための方策の主な内容 :

・ 未承認等の医薬品の使用に関し、使用の状況の把握のための体系的な仕組みを構築し平成28年9月1日より運用開始をしている。

・ 医薬品安全管理責任者は医療の質・安全推進室との情報交換・情報収集を毎週実施。

・ 医薬品適正使用委員会、抗生物質検討委員会にて、医薬品使用に関する情報を収集・検討し適正使用に活用。

・ 隔月に看護部・薬剤部連絡会を開催し、医薬品安全使用のための情報共有や問題解決について検討。

・ 病棟担当薬剤師および外来担当薬剤師が担当部門で薬品に係わるインシデントを感知した場合に速やかに医薬品安全管理責任者まで連絡がいく体制を構築し、薬剤部内で徹底。

・ 医薬品安全管理責任者は投薬・注射ワーキンググループのリーダーとして、医薬品の安全使用に関する検討会を毎月開催。

・ 処方に関する疑義照会およびプレアボイド事例をまとめ、リスクマネジメント委員会の会議に報告し、医薬品の安全使用の喚起を実施(1回/2月)。さらに部科長会議、診療部会等で報告・説明。

・ 休薬期間を考慮する必要性のある医薬品一覧表を年2回更新し、配布およびイントラネットで参照を可能としている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 167 回 (H28年度実績)
・ 研修の主な内容： ① 新しい医療機器の導入時の研修 ② 特定機能病院における定期的研修 ・ 人工呼吸器 ・ 閉鎖式保育器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 人工心肺装置 など	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ( (有)・無 ) ・ 保守点検の主な内容： ① 定期点検 (外観点検、機能点検、作動点検、電気的安全性点検) ② 終了時点検 (作動点検、外観点検) ③ 安全ラウンド点検 (作動点検、使用法確認) ④ 故障時点検 (外観点検、機能点検、作動点検) など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ① リスクマネジメント委員会での報告 (医療機器安全性情報の徹底、院内院外インシデントの報告・検討) ② 院内広報誌 (リスクマネジメントニュースなど) での広報 (医療機器安全性情報等) ③ インシデントに基づいた研修会の開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	○有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>副院長 (危機管理・医療安全担当) が医療安全管理責任者の職務を担い、医療安全管理部門、リスクマネジメント委員会 (医療安全管理委員会)、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況【感染管理室】	○有 (6名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>1) 添付文書の更新への対応</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・薬剤部内には、週 1 回発行されるホットラインに掲載し情報を徹底。その内容に則って調剤監査を行う。病棟担当者もそれをもとに処方監査を行う。</li><li>・特に重要と考えられるものは医薬品適正使用委員会 (2 か月に 1 回開催) で報告。</li><li>・院内のオンライン医薬品情報は定期的 (1 回/月) に更新されるが、周知に緊急を要する場合は更新を待たずに、マニュアルで上書き修正する。</li></ul> <p>2) イエローレター、ブルーレター発出時</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・イエローレター、ブルーレターが発出された場合は、その時点でその医薬品を使用している医師をリストアップし、直接連絡を入れる。</li><li>・処方時にポップアップで表示。</li><li>・医師には全員イエローレター、ブルーレターをポストに投函。</li><li>・各病棟 (看護係長、医師カンファレンスルーム) には病棟担当者が配布・説明。</li><li>・外来は全診察室内に掲示。</li><li>・イエローレターは、医療安全情報として全職員に回覧し、回覧の有無の確認も実施。</li></ul> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認医薬品等の使用については、「未承認新規医薬品等審査担当」を置き、医療安全管理部門に所属する医師、薬剤師を含めて構成した「未承認新規医薬品等評価小委員会」で対応している。</p> <p>・担当者の指名の有無 (○有) ・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>(所属： 心臓血管外科、 職種 医師 )</p>	

(所属： 神経内科, 職種 医師 )

(所属： 放射線治療科, 職種 医師 )

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容  
○院内規程の整備

「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン」

平成27年11月1日制定、平成28年9月1日改正

○遵守状況の確認

・定型の説明同意文書の作成時に、「北里大学病院・東病院における説明と同意に関するガイドライン」に基づき、標準的説明内容、記載項目、表現等を確認する。

・説明同意文書の使用に関し、署名等の実施を確認する。

・説明内容等の診療録記載について、頻度等を確認する。

○指導の主な内容

・説明と同意の在り方ならびにその方法等についての指導

・定型の説明同意文書の作成時に、標準的説明についての指導

・説明内容等の診療録への記載方法についての指導

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

○記載内容の確認

・全ての退院患者の診療録を対象とし、次の事柄を確認する。

－ 変換ミス、部位・日付等の誤記載

－ 有害事象の発生が疑われる記載

－ CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載

・無作為抽出した診療録を対象とし、医師・看護師・コメディカル・診療情報管理士・事務等で構成される「診療情報管理委員会」において、定期的に記録内容を確認する。

○指導等の主な内容

・電子カルテの適切な使用方法を始め、診療録の記載方法について指導する。

・診療録の誤記載の修正等について指導する。

- ・作成文書等の未作成および不備等について指導する。
- ・CV穿刺、DVT・PE予防等の有害事象の再発防止策に関わる記載の不備等について、医療の質・安全推進室を介して周知等を行う。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・所属職員：専従（7）名、専任（1）名、兼任（1）名
- うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（1）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち事務職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- リスクマネジメント委員会の運営に関する業務
- 医療事故防止のための事例情報収集・分析・対策立案・フィードバックに関する業務
- 医療安全のための職員研修に関する業務
- 医療安全管理に関するマニュアル・ハンドブック等の整備に関する業務
- 患者相談窓口担当者との支援、連携に関する業務
- 医療事故発生時や事故後の対応支援及び指導に関する業務
- 医療訴訟、和解等に関する業務
- 医療安全管理の適正な実施における疑義による公益通報への対応業務
- 医療安全監査委員会に関する業務
- 全死亡例及び医療事故の報告に関する業務
- 医療安全に資する診療内容及び医療安全の認識のモニタリング業務
- 他の特定機能病院との相互立入に関する業務
- 他

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

医療安全管理部門に配置する職員のうち看護師2名を医療安全管理者に任用しており、いずれも専任の医療に係る安全管理を行う者の基準を満たしている。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ラウンド（院内ラウンド）での職員へのヒアリング
- インシデント報告（あいれぼ）の報告内容の確認
- 診療情報管理士による診療録の内容確認
- 各種テンプレート（中心静脈カテーテル、深部静脈血栓）の入力情報の確認

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術提供に関する院内体制の整備

高難度新規医療技術の提供の審査

(高難度新規医療技術評価小委員会、臨床研究及び新規医療等管理委員会)

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 ・  無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 活動の主な内容 :

未承認新規医薬品等の使用に関する院内体制の整備

未承認新規医薬品等の使用についての審査

(未承認新規医薬品等評価小委員会、臨床研究及び新規医療等管理委員会)

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 ・  無 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 ・  無 )

⑨ 監査委員会の設置状況

有 ・  無

- ・ 監査委員会の開催状況 : 年 回

平成 28 年度は開催なし。平成 29 年 7 月 6 日に第 1 回監査委員会を開催

- ・ 活動の主な内容 :

- 1) 医療安全業務が適切に実施されているか、医療安全に係る取り組み状況の確認。
- 2) 医療安全管理業務が適切に実施されていない場合又は、適切に実施されない恐れがある場合など、必要に応じて、是正措置を講じるよう、助言する。

- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( 有  無 )
- ・ 委員名簿の公表の有無 ( 有  無 )
- ・ 委員の選定理由の公表の有無 ( 有  無 )
- ・ 公表の方法 : 法人ホームページによる。(現在構築中)

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
平原 史樹	独立行政法人国立 病院機構 横浜医 療センター	○	大学病院等の医療機関におけ る医療安全業務の経験	有 <input checked="" type="radio"/> 無	医療に係る安全管 理に関する識見を 有する
海野 宏行	みなと綜合法律事 務所		弁護士としての経験。	有 <input checked="" type="radio"/> 無	法律に関する識見 を有する。

山口 育子	認定 NPO 法人ささえあい医療人権センターCOML		医療現場により良いコミュニケーションを築く豊富な活動経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	医療を受ける側の立場として
和田 仁孝	早稲田大学大学院法務研究科		医療メディエーターとしての豊富な経験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	学識経験を有する。
花井 恵子	神奈川県看護協会		大学病院における医療安全業務の経験	<input checked="" type="radio"/> 有・無	医療に係る安全管理に関する識見を有する

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 762 件</li> <li>・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 17 件</li> <li>・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 報告の実施状況の確認及び確認結果の管理者への報告。実施状況が不十分な場合の職員に対する研修及び指導。 毎月、RST・RRT（呼吸療法サポートチーム・ラピッドレスポンスチーム）の活動状況より、死亡症例の報告がなされ、対応についての確認を行っている。</li> </ul>
<p>⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の特定機能病院等への立入り（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：埼玉医科大学病院）・無）</li> <li>・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有（病院名：埼玉医科大学病院）・無）</li> <li>・技術的助言の実施状況</li> <li>・入院患者への注射薬管理におけるピッキングマシンなどの機械化はされておらず、安全な薬剤の提供においては何らかの機械化を検討する余地があるとの助言をうけたが、導入には至らず、部門内の協力体制強化をもって対応している。</li> <li>・県内 3 大学病院（聖マリアンナ・東海・横浜市大）との間で、3 ヶ月に 1 度情報交換の場を設け、技術的助言を求め、改善に努めている。</li> </ul>
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体制の確保状況 現場で初期対応後、患者相談窓口引継がれ、患者相談窓口と医療安全管理部門が協働して適切に</li> </ul>

対応する。
⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> </ul>
⑭ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の実施状況 平成 28 年 11 月 24 日開催の医療安全研修会において、医療法施行規則（平成 28 年 6 月改正）について、職員に求められる点を講義形式で医療の質・安全推進室長より全職員対象に実施した。</li> </ul>
⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の実施状況 医療安全管理責任者 医療安全管理者養成課程講習会及び国公立大学附属病院医療安全セミナー受講</li> </ul>

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 8)

北里病発第 29-100 号  
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 北里研究所  
理事長 小林 弘祐 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

日本医療機能評価機構が厚生労働省の委託を受けて実施する平成 29 年度特定機能病院管理者研修事業に参加予定である。

- 1) 管理者、医薬品安全管理責任者

第 5 回（平成 30 年 3 月 13 日、14 日開催）参加予定

- 2) 医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者

第 3 回（平成 30 年 1 月 9 日、10 日開催）参加予定

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（6）名

うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（6）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

医療安全管理部門の長として、医師 1 名を専従で配置している。しかしながら、現時点では、医療安全業務の従事割合が全体の 8 割に達していない。平成 30 年 3 月 31 日までに従事割合を改善し、専従体制とする。